

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

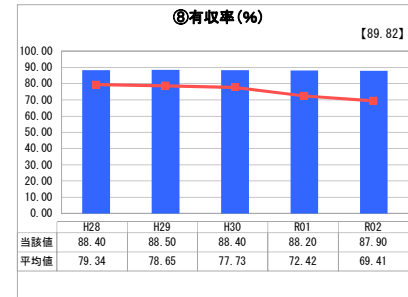
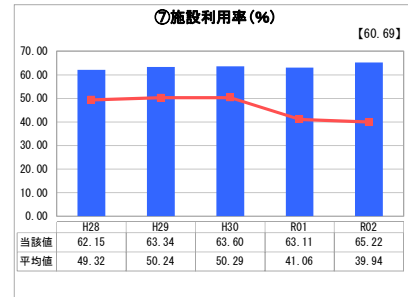
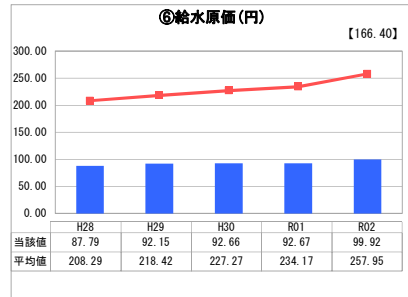
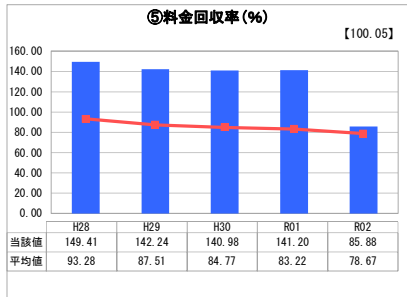
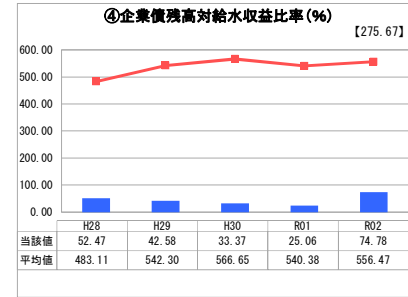
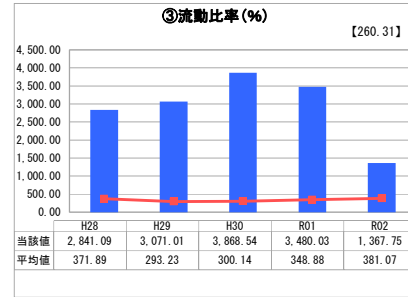
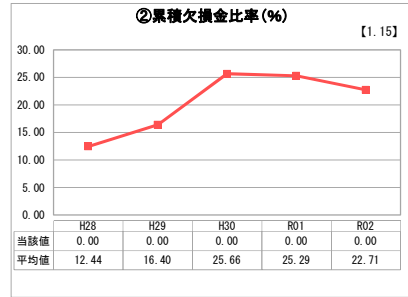
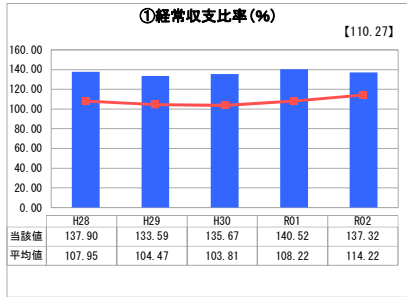
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	92.00	34.98	2,612	

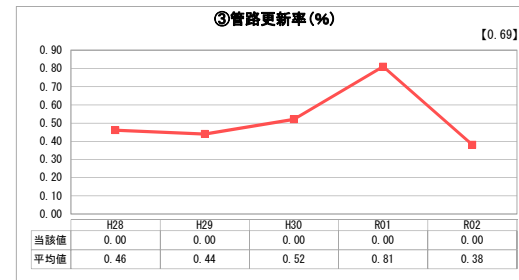
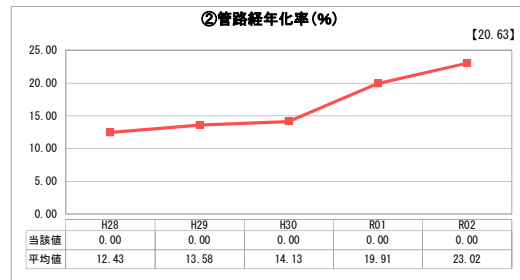
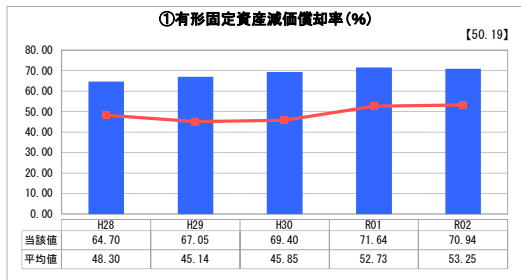
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,867	144.21	96.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,847	4.02	1,205.72

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、近年、住宅やアパートの建設が進んだことにより、給水収益が増加したことと上昇しているが、令和2年度は、経営戦略策定に伴う、委託費が増加したこと、前年度から減少する要因となった。

流動比率については、令和2年度で未払金の増加により、前年度から大幅な減少となったが、比率が100%を上回っているため健全性が保たれている。

企業債残高対給水収益比率については、近年、企業債償還額が減少傾向にあったが、令和2年度で、起債事業が増加したことが、上昇の要因となった。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることがあげられる。

料金回収率は、平成28年度から高い数値で推移していたが、令和2年度で2期分(4か月)の水道料金を免除したことにより、一時的な料金収入の減少なので、健全性に問題がないと判断できる。

給水原価については、平成28年度から上昇傾向にあるが、令和2年度では、経営戦略策定に伴う、委託費が増加したことと上昇する要因となった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。

施設利用率については、企業への安定した給水により横ばいで推移している。

有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移している。類似団体より高い水準で推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるため、今後は、計画的な施設更新を考えていく。

管路経年劣化及び管路更新率については、低い水準になっているが、保有資産の計画適的な更新を進めていく必要がある。

## 全体総括

有形固定資産近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

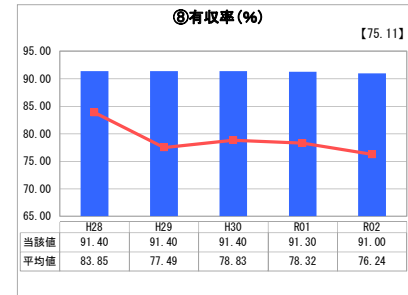
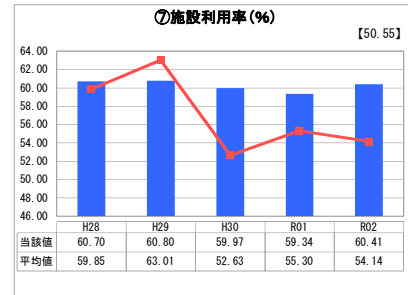
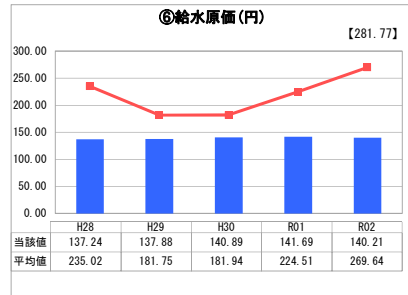
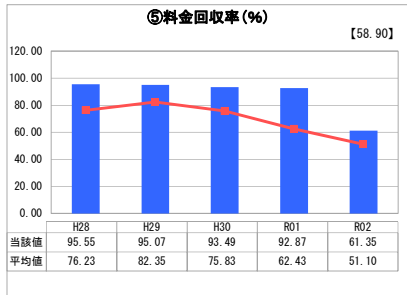
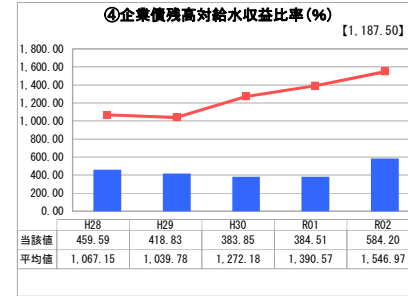
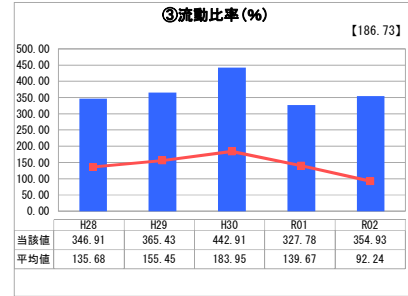
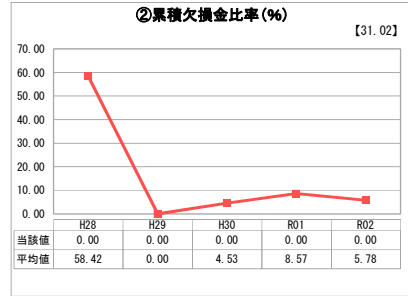
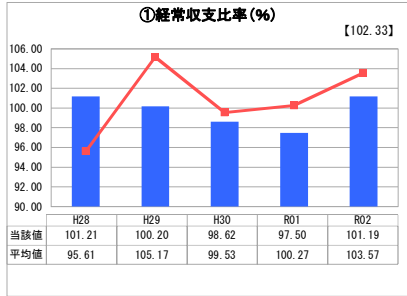
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	67.23	60.89	2.612	

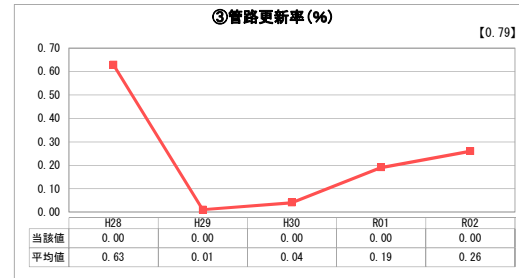
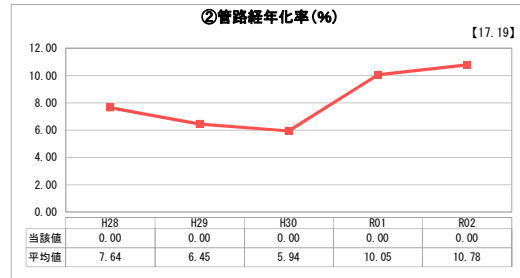
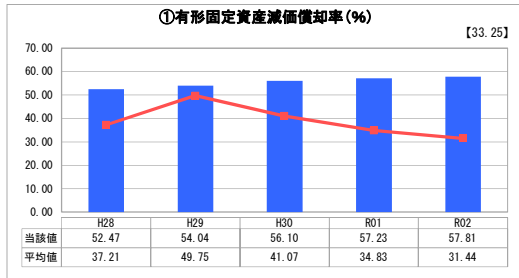
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,867	144.21	96.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,437	27.11	311.21

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 令和2年度は令和元年度に比べ、委託料が減少している。その結果100%を上回っている。
- 当該数値より、健全な経営が保たれている。
- 類似団体と似た変動であるが、比率は100%を超えているので健全性が保たれている。
- 類似団体とは違い少ない傾向にあるが、企業債を財源とした施設の更新を行ったため、数値が上昇した。
- 類似団体より高い水準ではあるが、100%を下回っており、費用が給水収益で賄えていないことが分かる。持続可能で健全な事業であるために、適切な料金収入の確保に努める。
- 類似団体に比べて大きな変動はなく、低い水準となっている。引き続き、適切で効率的な維持管理に努める。
- 歯止めが効かない人口減少により、過疎化が進み、年々施設の稼働率が減少している。将来の人口規模を見据え、ダウンサイジング・広域化等を行って規模の適正化を図っていく必要がある。
- 類似団体より高い水準ではあるものの、水源地の能力がひっ迫しているため、一層の維持管理に努める必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

- 老朽化の状況については、有形固定資産減価償却率が上昇傾向になっており、保有資産の法定耐用年数が近づいてきている。
- 管路経年化率及び③管路更新率については、低い水準になっているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

### 全体総括

経営の健全性に向けて、さらなる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要があります。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管渠等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。